



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年11月5日

東

上場会社名 コタ株式会社

上場取引所

コード番号 4923

URL <https://www.cota.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長

（氏名）小田 博英

問合せ先責任者（役職名）取締役広報・IR部長

（氏名）西村 充弘

TEL (0774) 44-4923

半期報告書提出予定日 2025年11月10日

配当支払開始予定日

—

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	3,541	△1.5	153	△22.6	205	10.2	133	9.4
2025年3月期中間期	3,594	4.9	198	△23.8	186	△31.3	122	△34.6

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	4.82	—
2025年3月期中間期	4.36	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	13,288	10,785	81.2
2025年3月期	14,877	11,207	75.3

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 10,785百万円 2025年3月期 11,207百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	20.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	9,668	3.1	1,916	4.6	1,948	6.2	1,368	4.9	49.30

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	32,934,663株	2025年3月期	32,934,663株
2026年3月期中間期	5,185,889株	2025年3月期	5,185,201株
2026年3月期中間期	27,749,082株	2025年3月期中間期	27,990,776株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 経営成績等の概況 （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	5
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間貸借対照表	6
(2) 中間損益計算書	7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、景気は緩やかな持ち直しの動きがみられました。一方で、原材料・エネルギー価格の高騰や物価上昇による個人消費への影響が懸念される等、先行きは不透明な状況が続いております。

美容業界におきましては、美容室経営の二極分化が進んでおり、多くの美容室では来店客数の減少や客単価の伸び悩み、生産性の低下等、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社におきましては「女性は髪からもっと美しくなれる」というコーポレートスローガンのもと、美容室でのカウンセリングを通じて、来店客に対して付加価値の高いヘアケア提案を行っております。特に、ヘアケアの基本であるシャンプー及びトリートメントの主力ブランド「コタ アイ ケア」を中心に美容室での販売を推進することで、多くの「女性のキレイ」を髪から応援しております。また、創業精神である「美容業界（美容室経営）の近代化」をベースに、独自のビジネスモデルである「トイレタリーの販売を中心とした店販戦略」と「旬報店システムを軸としたコンサルティング・セールス」を引き続き展開し、美容室の業績向上に向けた提案や経営に関する支援を行っております。

売上高につきましては、店販戦略の主力である「コタ アイ ケア」の販売が好調に推移したものの、2024年8月に発売した整髪料の新製品「コタクチュール ベース」の評価が非常に高く、一部のお取引先において在庫確保の動きがあった反動もあり、前中間会計期間の実績を僅かに下回りました。

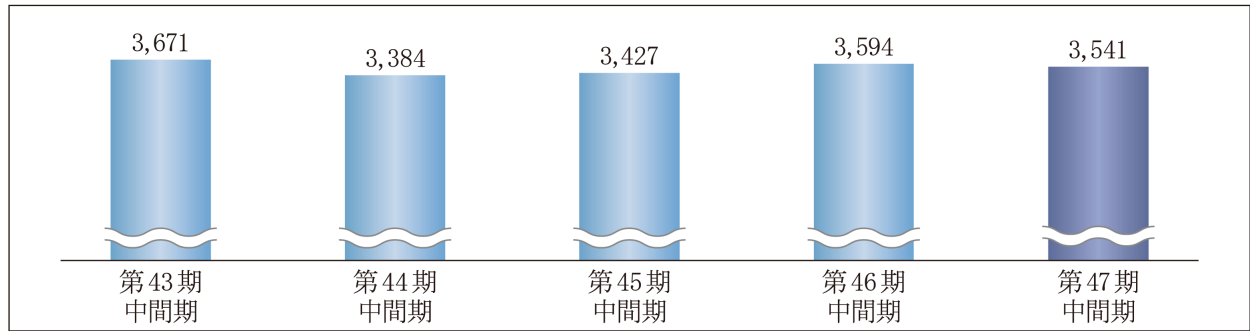
また、売上原価につきましては減収により減少したものの、販売費及び一般管理費につきましては、人材採用に関連する経費等の増加により、前中間会計期間の実績を上回りました。

営業外収益につきましては、受取配当金が前中間会計期間より29百万円増加した一方で、営業外費用につきましては、前中間会計期間に計上した支払手数料が当中間会計期間には発生しておりません。

これらの結果、当中間会計期間の売上高は3,541百万円（前中間会計期間比1.5%減）、営業利益は153百万円（前中間会計期間比22.6%減）、経常利益は205百万円（前中間会計期間比10.2%増）、中間純利益は133百万円（前中間会計期間比9.4%増）となりました。当社は営業戦略上、売上高及び各利益の構成比率は下半期のウエイトが大きくなっているため、通期の業績に対して、当中間会計期間の業績が与える影響は小さいものと判断しております。なお、以下のグラフの通り、第43期中間期の業績が突出しておりますが、これはトイレタリーのトップブランド「コタクチュール」の販売によるものであります。

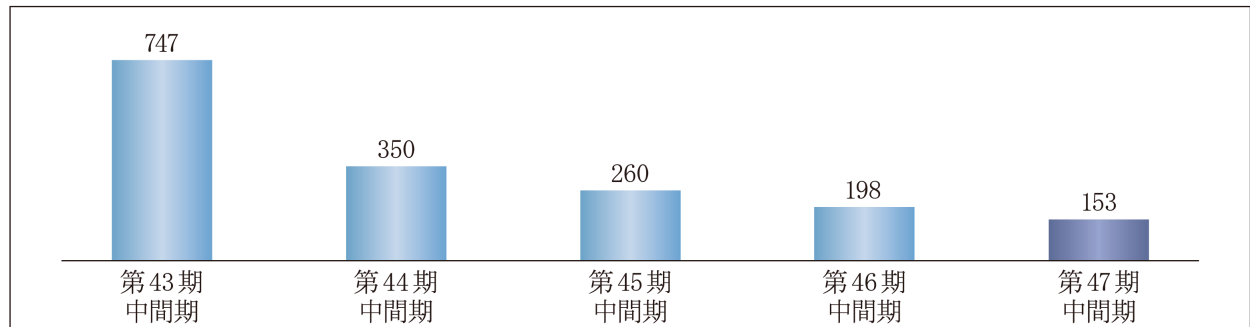
売上高

(単位:百万円)



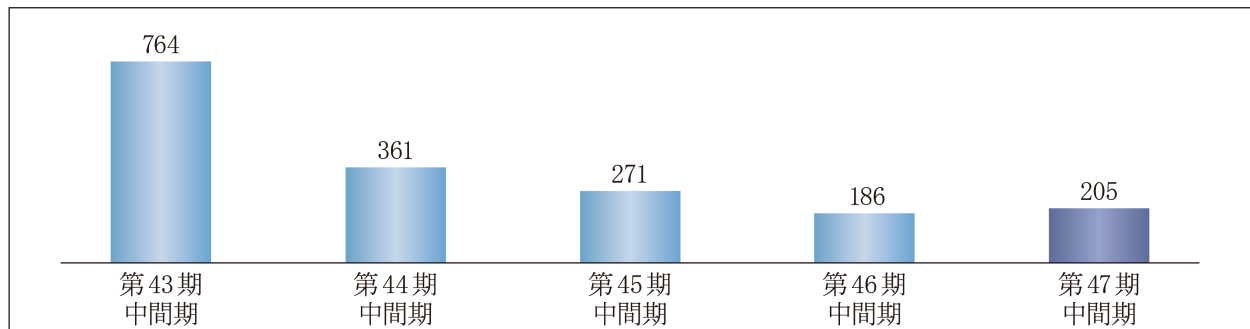
営業利益

(単位:百万円)



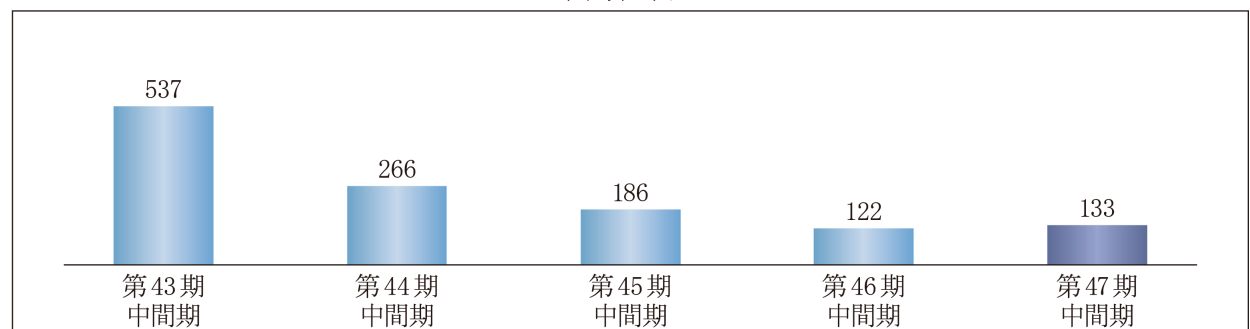
経常利益

(単位:百万円)



中間純利益

(単位:百万円)



なお、当社は美容室向けの頭髮用化粧品及び医薬部外品の製造、販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の開示は行っておりませんが、売上高の内訳は以下のとおりであります。

区分	前中間会計期間		当中間会計期間		増減額 (百万円)	増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		
トイレタリー	2,494	65.6	2,628	70.4	133	5.4
整髪料	908	23.9	727	19.5	△181	△20.0
カラー剤	143	3.8	114	3.0	△29	△20.8
育毛剤	163	4.3	163	4.4	0	0.4
パーマ剤	44	1.2	51	1.4	6	14.3
その他	46	1.2	49	1.3	3	6.8
小計	3,801	100.0	3,733	100.0	△67	△1.8
売上高控除	△206	—	△192	—	14	—
合計	3,594	—	3,541	—	△53	△1.5

当社は、2つのミッションである「世の中の美容室を一軒でも多く近代経営に導く」と「世の中の女性を一人でも多く髪から美しくする」を実現するために、トイレタリーの販売を中心とした「店販」を推進しながら、美容室の経営改善システムである「旬報店システム」を軸とした美容室の経営コンサルティング(コンサルティング・セールス)を展開することで、成長・繁栄につながるさまざまな提案を美容室に行っております。

そのため売上高に占めるトイレタリーの割合は、同業他社に比べ高いことが特徴であります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

(総資産)

当中間会計期間の総資産は、前事業年度から1,589百万円減少し、13,288百万円となりました。

主な要因としては、商品及び製品が347百万円増加し、売掛金が982百万円、現金及び預金が937百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間会計期間の負債は、前事業年度から1,167百万円減少し、2,502百万円となりました。

主な要因としては、未払金が781百万円、未払法人税等が490百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間会計期間の純資産は、前事業年度から422百万円減少し、10,785百万円となりました。

主な要因としては、利益剰余金が421百万円減少したことによるものであります。なお、自己資本比率は、81.2%(前事業年度75.3%)となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末より937百万円減少し、2,230百万円(前中間会計期間比683百万円増)となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の減少は、166百万円(前中間会計期間は808百万円の減少)となりました。

収入の主な要因としては、売上債権の減少981百万円によるものであります。

支出の主な要因としては、法人税等の支払額511百万円、その他の支出633百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、217百万円(前中間会計期間は206百万円の減少)となりました。

支出の主な要因としては、有形固定資産の取得による支出45百万円、無形固定資産の取得による支出114百万円、投資有価証券の取得による支出50百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、552百万円(前中間会計期間は1,133百万円の減少)となりました。

支出の主な要因としては、配当金の支払額551百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は営業戦略上、売上高及び各利益の構成比率は下半期のウエイトが大きくなっております。

第3四半期以降につきましては、美容業界の繁忙期と重なることに加え、11月から12月にかけて当社製品の販売コンクールである「コタ全国店販コンクール」を開催しており、「コタ アイ ケア」ならびに「コタクチュール」を中心としたトイレタリーの需要増加を見込む一方で、人件費を中心とした販売費及び一般管理費の増加を見込んでいることから、現時点において2025年5月8日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位: 千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,167,478	4,230,372
売掛金	1,574,566	592,367
商品及び製品	1,436,324	1,784,094
仕掛品	55,660	96,076
原材料及び貯蔵品	585,686	572,702
その他	79,223	106,271
貸倒引当金	△756	△32
流動資産合計	8,898,184	7,381,852
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,381,160	2,301,097
土地	2,079,731	2,079,731
その他(純額)	472,389	451,078
有形固定資産合計	4,933,280	4,831,906
無形固定資産	167,714	176,548
投資その他の資産	878,764	897,891
固定資産合計	5,979,758	5,906,346
資産合計	14,877,943	13,288,199
負債の部		
流動負債		
買掛金	197,123	240,091
未払金	904,813	123,651
未払法人税等	544,193	53,225
賞与引当金	296,186	306,986
役員賞与引当金	1,562	18,202
その他	343,730	433,801
流動負債合計	2,287,609	1,175,958
固定負債		
退職給付引当金	158,609	103,193
役員退職慰労引当金	783,440	788,317
資産除去債務	261,313	261,715
長期預り保証金	179,100	173,600
固定負債合計	1,382,463	1,326,826
負債合計	3,670,072	2,502,785
純資産の部		
株主資本		
資本金	387,800	387,800
資本剰余金	642,483	642,483
利益剰余金	13,989,551	13,568,186
自己株式	△3,812,430	△3,813,408
株主資本合計	11,207,404	10,785,061
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	466	352
評価・換算差額等合計	466	352
純資産合計	11,207,870	10,785,413
負債純資産合計	14,877,943	13,288,199

(2) 中間損益計算書

	(単位：千円)	
	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	3,594,477	3,541,311
売上原価	1,058,340	1,030,171
売上総利益	2,536,137	2,511,139
販売費及び一般管理費	2,337,381	2,357,308
営業利益	198,756	153,831
営業外収益		
受取利息	1,791	11,383
受取配当金	2,555	32,143
業務受託料	4,800	4,800
違約金収入	1,060	3,998
その他	4,996	3,487
営業外収益合計	15,202	55,813
営業外費用		
投資有価証券売却損	—	4,055
支払手数料	23,198	—
固定資産除却損	3,398	18
その他	881	114
営業外費用合計	27,478	4,188
経常利益	186,480	205,456
税引前中間純利益	186,480	205,456
法人税、住民税及び事業税	42,819	39,157
法人税等調整額	21,510	32,675
法人税等合計	64,330	71,832
中間純利益	122,150	133,624

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	186,480	205,456
減価償却費	181,315	152,025
貸倒引当金の増減額(△は減少)	27	△724
賞与引当金の増減額(△は減少)	13,511	10,799
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	17,370	16,639
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△25,387	△55,415
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5,504	4,877
受取利息及び受取配当金	△4,346	△43,527
売上債権の増減額(△は増加)	675,399	981,843
棚卸資産の増減額(△は増加)	△542,067	△375,200
仕入債務の増減額(△は減少)	△39,132	42,968
その他	△734,556	△633,669
小計	△265,881	306,074
利息及び配当金の受取額	3,930	35,259
法人税等の支払額	△547,171	△511,914
その他	1,120	3,974
営業活動によるキャッシュ・フロー	△808,003	△166,606
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,000,000	—
定期預金の払戻による収入	2,000,000	—
有形固定資産の取得による支出	△189,160	△45,483
無形固定資産の取得による支出	△7,619	△114,246
投資有価証券の取得による支出	—	△50,000
投資有価証券の売却による収入	—	5,064
その他	△9,435	△12,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	△206,216	△217,568
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△621,190	△978
自己株式の売却による収入	117	—
配当金の支払額	△512,715	△551,952
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,133,788	△552,930
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,148,008	△937,105
現金及び現金同等物の期首残高	3,694,622	3,167,478
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,546,614	2,230,372

（４）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

当社は美容室向けの頭髮用化粧品及び医薬部外品の製造、販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。